

# 果樹の生育概況

令和6年5月1日現在  
福島県農業総合センター果樹研究所

## 1 気象概況

4月の平均気温は14.8℃で、平年より3.6℃高かった。また、この期間の降水量は56.5mmで平年比69%、日照時間は238.9hrで平年比111%であった（表1）。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
4	1	10.6	8.4	+2.2	17.2	14.4	+2.8	4.4	2.8	+1.6	3.5	9.9	35.4	41.6	37.8	110.1
	2	13.2	10.1	+3.1	19.9	16.1	+3.8	7.0	4.2	+2.8	49.5	12.0	412.5	29.7	33.7	88.1
	3	15.0	10.7	+4.3	24.1	16.6	+7.5	7.1	5.3	+1.8	0.0	16.8	0.0	53.4	33.9	157.5
	4	15.6	11.5	+4.1	21.2	17.8	+3.4	10.6	5.7	+4.9	1.0	15.3	6.5	33.6	35.8	93.9
	5	14.6	12.9	+1.7	20.0	19.0	+1.0	10.5	7.2	+3.3	2.5	17.4	14.4	39.0	36.5	106.8
	6	20.0	13.8	+6.2	27.4	20.6	+6.8	13.1	7.2	+5.9	0.0	10.2	0.0	41.6	37.9	109.8
平均・合計		14.8	11.2	+3.6	21.6	17.4	+4.2	8.8	5.4	+3.4	56.5	81.6	69.2	238.9	215.6	110.8

## 2 土壌の水分状況

4月30日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで2.8、深さ40cmで2.2、深さ60cmで2.0となっており、深さ20cmでは乾燥状態である（図1）。（深さ40cm、60cmは、4月1～17日までデータ欠損）

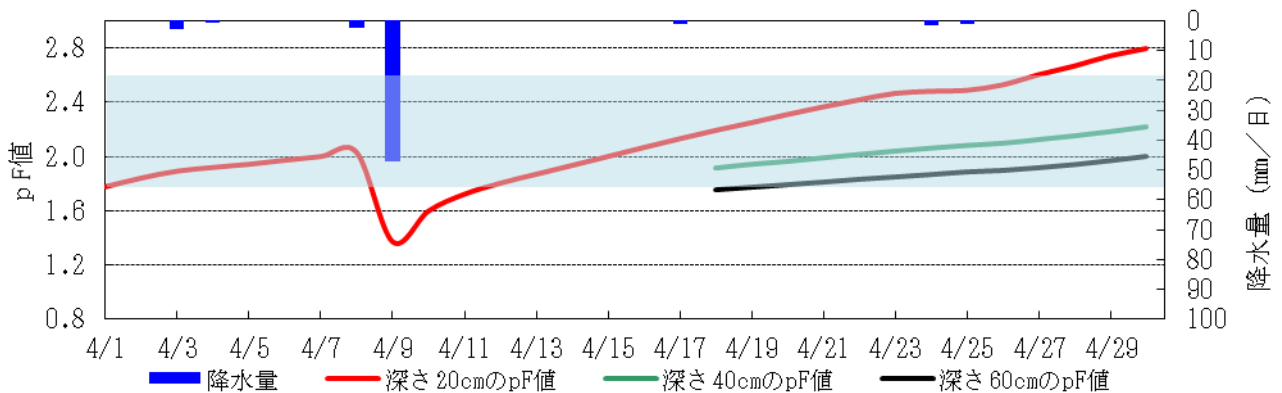


図1 土壌 pF 値の推移（果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）

図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

## 3 発育状況

開花の状況について、リンゴ「つがる」の満開は4月23日で平年より7日早かった（表2）。

表2 各樹種（品種）の開花状況（観測地点：果樹研究所内、4月30日現在）

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
リンゴ	つがる	4月16日	4月25日	4月10日	4月23日	4月30日	4月14日
	ふじ	4月15日	4月26日	4月10日	4月22日	4月30日	4月14日

注) 平年は1991～2020年の平均値

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底する。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照)

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策(令和6年3月7日)」

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/620212.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込む。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保する(乾燥条件は気温の低下が著しいため)。

##### (2) モモ

摘らいや摘花を実施しなかった場合や、摘らい程度が弱く着果数が多い園地は、予備摘果を実施する。なお、品種により着果量が少ない場合は、仕上げ摘果から作業を行う。

##### (3) ナシ

予備摘果は満開後30日以内に終了するように努める。予備摘果と同時に芽かきを実施し、主枝や垂主枝の背面枝はかき取る。不定芽新梢が混み合っている場所は芽かきで2~3本に整理し、適度な間引きを実施する。予備枝は風による新梢折損のおそれなくなったら先端新梢を一本に整理する。

この時期に土壌が乾燥している場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壌水分を十分に確保する。

平年より新梢伸長が不良で葉色が淡い場合には、早期摘果で着果量を制限するとともに、5月中を目安に窒素成分を含む葉面散布剤を使用するなどして樹勢の回復を図る。

##### (4) リンゴ

実止まりが確認できた後、予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するように努める。原則として中心果を残し、着果の多い樹や樹勢の弱い樹から摘果する。

結実が良好な園では、長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良果そうの果実は摘除し、着果負荷の軽減を図る。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除する。

予備摘果と平行して、主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している新梢をかき取る。

##### (5) ブドウ

「巨峰」等の4倍体品種における無核栽培では、やや強めの新梢を確保することに心がける。1回目は展葉4~5枚時に副芽や極端に強い新梢を取り除く。2回目は新梢の生育差が判断できる7~8枚時に誘引作業と併せて行う。新梢が混み合っている部分や、弱い新梢を中心に取り除く。3回目は結実後に新梢の混み合っている部分の手直しや徒長的で結実の悪い新梢をかき取る。

有核栽培における1回目の芽かきは、展葉初期に副芽や結果母枝基部2~3芽をかき取る。なお、晩霜害の危険がある場合は副芽の芽かきは次回に行う。2回目は晩霜害の危険がなくなりしだい早めに行い、展葉7~8枚目までに母枝先端の極端に強く花振るいの危険性が高い新梢を中心に整理する。3回目は無核栽培と同様に実施する。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア リンゴ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後であるため、昨年本病の発生が認められた場合は、落花直後に本病に有効なDMI剤（県病虫害防除指針参照）を使用して被害防止に努める。

#### イ リンゴ褐斑病

例年本病の発生が多い場合には、落花直後にデランフロアブル 1,000 倍を使用する。

#### ウ モモせん孔細菌病

4月中旬の春型枝病斑の発生状況は平年並であるが（令和6年4月24日付け令和6年度病虫害発生予察情報発生予報第1号）、5月に降雨が多い場合、被害が急拡大するおそれがある。本病は発生初期の密度抑制が重要であるため、こまめにほ場を巡回して伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除の徹底に努める。春型枝病斑のせん除の際は、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、罹病枝を可能な限り基部まで切り戻す（図2）。薬剤防除は、降雨前の予防散布を基本に10日間隔で実施する。なお、クプロシールドの使用に当たっては、薬害の発生を軽減するため、クレフノン 100 倍を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用し、薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行う。また、散布時及び散布後の高温で薬害を生じることがあるので注意する。



図2 春型枝病斑のせん除位置

#### エ モモうどんこ病

例年本病（「毛じヤケ」を含む）の発生が多い場合には、落花10日後頃にトリフミン水和剤 1,500 倍を使用する。

#### オ モモ灰星病

本病による花腐れ症状が確認されている（図3）。花腐れは果実への伝染源となるため、見つけ次第せん除して園外に持ち出し、菌密度の低下に務める。また、園周辺のオウトウ、スモモ、アンズの花腐れの発生にも注意する。



図3 枝先端での花腐れの発生

カ ナシ黒星病

4月中旬の芽基部病斑の発生ほ場割合は、中通りは平年並で、浜通りは平年より少なかったものの、今後まとまった降雨があった場合、感染拡大が懸念される（4月24日付け令和6年度病害虫発生予察情報発生予報第1号）。本病が花そう基部に発病している場合は、中・長果枝の花芽のりん片が脱落せずに付着しているため、見つけ次第除去して適切に処分する。

キ ブドウ黒とう病・ブドウ晩腐病

展葉5～6枚期はこれら2病害の防除時期となるため、本病に有効な薬剤を散布して初期の感染を防止する。今年度は生育が平年よりも前進しているため、防除適期を逃さないように注意する。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、第1世代を対象とした防除を速やかに行う。第1世代誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、5月5半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は5月6半旬頃と推定される（表3）。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキの越冬世代誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、5月2半旬頃と予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬頃と推定される（表3）。リンゴコカクモンハマキもこれに準じるものと考えられる。昨年、本種の発生が多かった園や、現在食害が見られる園では、防除を徹底する。

また、複合交信かく乱剤はハマキムシ類の越冬世代成虫発生初期に設置することが有効であるため、遅れないように設置する。

ウ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山沿いの園地ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和6年4月30日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	5月22日	5月28日	5月6日	5月21日
平年並	5月25日	6月1日	5月7日	5月25日
2℃低い	6月2日	6月9日	5月11日	6月2日

起算日：モモハモグリガ越冬世代誘殺盛期4月15日

リンゴモンハマキ3月1日（演算方法は三角法）